This is an exhibition to introduce the early and later works of Fumiaki Aono, an artist who lives in Sendai. Aono studied at Miyagi University of Education Graduate School and has conducted art activities consistent with the theme of repairing since 1996. This "repairing" is not about repairing broken things to be able to use them again but about weaving a history from time-lapsed things to make a narrative. In his creations, beginning from the wounds of worn-out furniture, the damages caused to objects drifting on the beach, etc., he restores whole pictures of these objects through imagination or combines them into different things. By doing so, Aono illuminates the shapes of objects—not as tools—and also draws on the emotion of people dwelling in the objects.

This exhibition gathers narratives woven from things from a variety of places, such as Arahama and Sakunami in Sendai; Kuwagasaki in Miyako, Iwate Prefecture; Kichijoji in Tokyo; and Okinawa. The exhibition will transform sendai mediatheque's sixth-floor gallery, a 1,000-square-meter space, into an art installation. There, Yagiyama in Sendai, where Aono grew up, is represented as *Koejiyama*—a place of the dead—since ancient times. Koejiyama will constitute the conclusion of the exhibit, as well as the starting point of all the exhibited narratives.

Please come appreciate the technique of recollection presented as an act of "repairing" by Aono, who has been closely observing present-day Sendai and Tohoku through memories of the Great East Japan Earthquake.

CTO — 84 — 2　C7 — 14

出典｜国土地理院 https://mapps.gsi.go.jp 空中写真データを加工し作成

このチラシはリサイクルできます

デザイン｜伊藤裕

展覧会

青野文昭　ものの, ねむり, 越路山, こえ

会期：2019年11月2日（土）～2020年1月12日（日）

会場：せんだいメディアテーク 6階ギャラリー4200

公開時間：11:00～20:00 ＊11月28日、12月29日から1月3日は休館

入場料：一般500円（大学生・専門学校生含む）
高校生以下無料（豊齢カード、障がい者手帳をお持ちの方は半額）

Exhibition

AONO FUMIAKI — Mono, sleeping, Koejiyama, voice-over

Date: Saturday, November 2, 2019–Sunday, January 12, 2020

Venue: sendai mediatheque 6F Gallery 4200

Hours: 11:00–20:00 *Closed November 28 and during the New Year's holiday (December 29–January 3)

Admission: ¥500 (free for high school students and young children)

主催　せんだいメディアテーク（公益財団法人 仙台市市民文化事業団）
助成　一般財団法人 地域創造　公益財団法人 花王 芸術・科学財団
後援　TBC東北放送　仙台放送　ミヤギテレビ　KHB東日本放送
河北新報社　朝日新聞仙台総局　読売新聞東北総局
毎日新聞仙台支局　産経新聞社東北総局　日本経済新聞社仙台支局
仙台リビング新聞社　S-style　エフエム仙台　FM76.2 RADIO3
協力　協同組合 仙台卸商センター

お問合せ

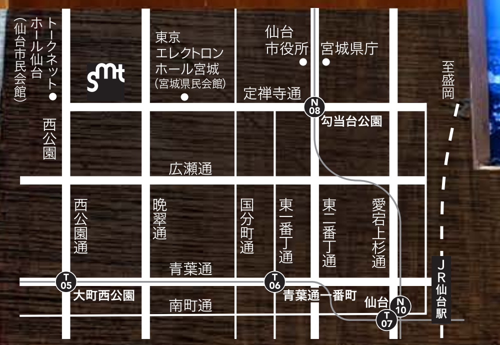
せんだいメディアテーク企画・活動支援室
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
Tel 022-713-4483　Fax 022-713-4482　https://www.smt.jp

sendai mediatheque
2-1 Kasugamachi, Aoba, Sendai,
Miyagi Prefecture 980-0821
Tel +81-22-713-4483　Fax +81-22-713-4482

関連出版物のご案内

展覧会記録書籍『AONO FUMIAKI NAOSU』

最新作によって構成される本展の写真記録とあわせ、青野の初期作品なども網羅的に掲載。青野本人によるテキストのほか、美術評論家の椹木野衣や福住廉らが寄稿。2020年3月発行予定。T&M Projectsより発売。

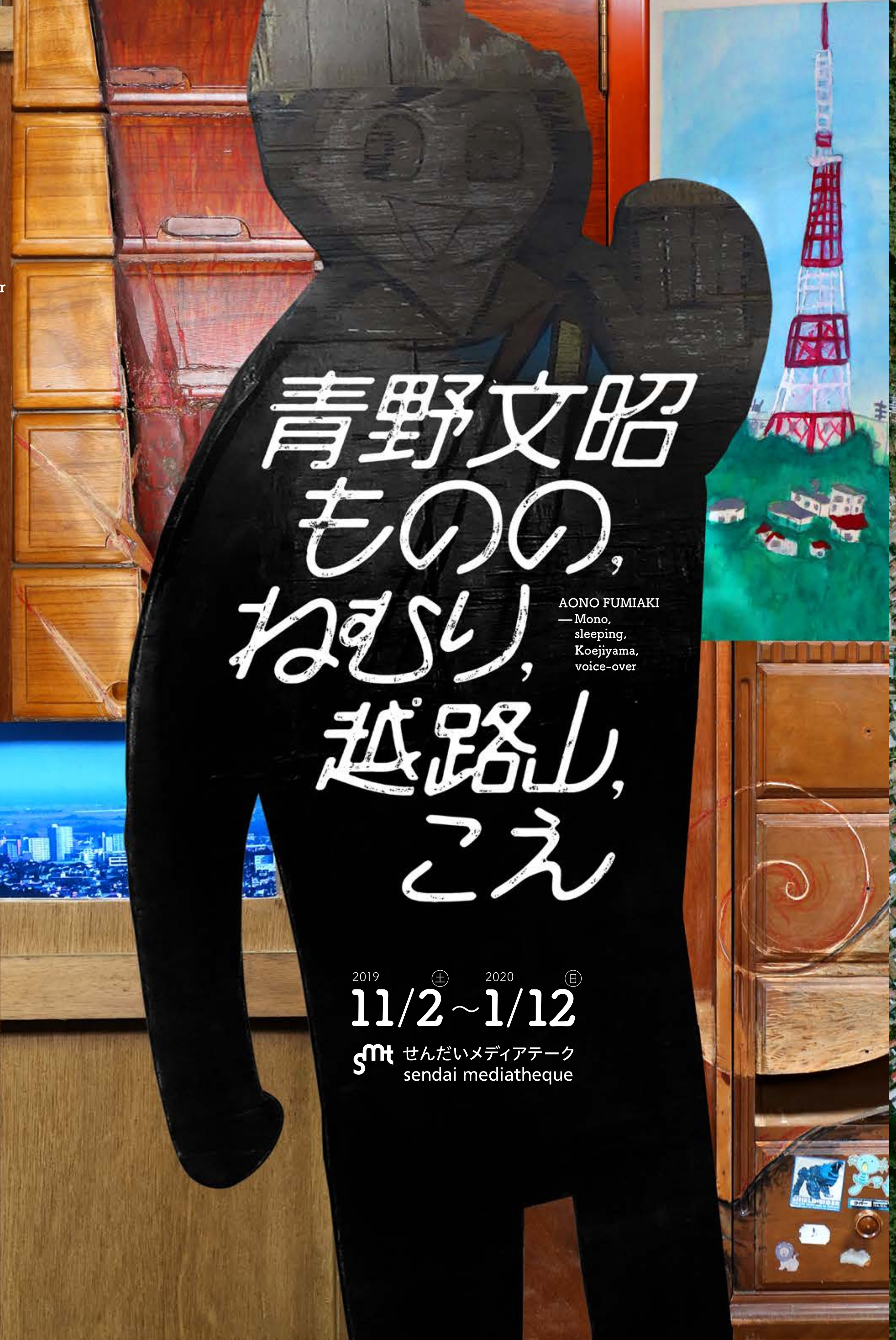


地下鉄：
南北線勾当台公園駅下車、「公園2」出口から徒歩6分（約450m）。
東西線大町西公園駅下車、「東1」出口または「西1」出口から徒歩13分。
東西線青葉通一番町駅下車、「北1」出口から徒歩15分。

バス：
仙台市営バス 仙台駅前60番（仙台TRビル前、地下鉄仙台駅「中央2」出口前）のりばから「定禅寺通市役所前経由交通局大学病院」行き（系統番号がJまたはXで始まるバス）で約10分、メディアテーク前下車。

By Subway:
Kotodai-Koen Station is a 3-minute ride from Sendai Station on the Sendai Subway Namboku Line bound for Izumi-Chuo. From the station, walk 6 minutes (about 450 meters) westward, along Jozenji-Dori from the Park 2 exit.

By Bus:
The sendai mediatheque bus stop is approximately a 10-minute ride from Sendai Station on the Kotsukyoku Daigaku Byoin via Jozenji-Dori route.



青野文昭 ものの, ねむり, 越路山, こえ

AONO FUMIAKI
—Mono,
sleeping,
Koejiyama,
voice-over

2019 11/2（土）～ 2020 1/12（日）

せんだいメディアテーク
sendai mediatheque

本展は仙台市在住の美術作家、青野文昭の初期作品から最新作までを紹介するものです。宮城教育大学大学院に学んだ青野は、1996年から「なおす」を主題に一貫した表現活動をおこなってきました。この「なおす」こととは、壊れたモノを再び使えるように修理することではなく、時を経たモノの履歴を物語のように紡ぎだすことです。青野は、使い込まれた家具の使用痕跡や、浜辺の漂流物の欠損箇所などからイメージをふくらませ、全体像を想像で復元したり、異なる種類のモノと接合してみせることで、道具としてではないモノのかたちを照らし、そこに宿った人の念を引き出してきました。

この展覧会では、荒浜や作並など仙台の各地、岩手県宮古市の鍬ヶ崎、あるいは東京の吉祥寺や沖縄など、さまざま場所のモノから紡いだ物語を集合させ、せんだいメディアテークの1000平米の6階ギャラリー全体を作品化します。そのなかに、青野の生誕地である仙台の八木山が、過去から続く死者の空間「越路山」としてあらわされます。越路山は、本展の帰結点であり、展示されるすべての物語の出発点でもあります。

東日本大震災の記憶とともに仙台や東北の現在をみつめてきた青野が、いくつもの「なおす」行為として示す、想起の技法をご確認ください。

青野文昭の構想メモ　メインストーリー

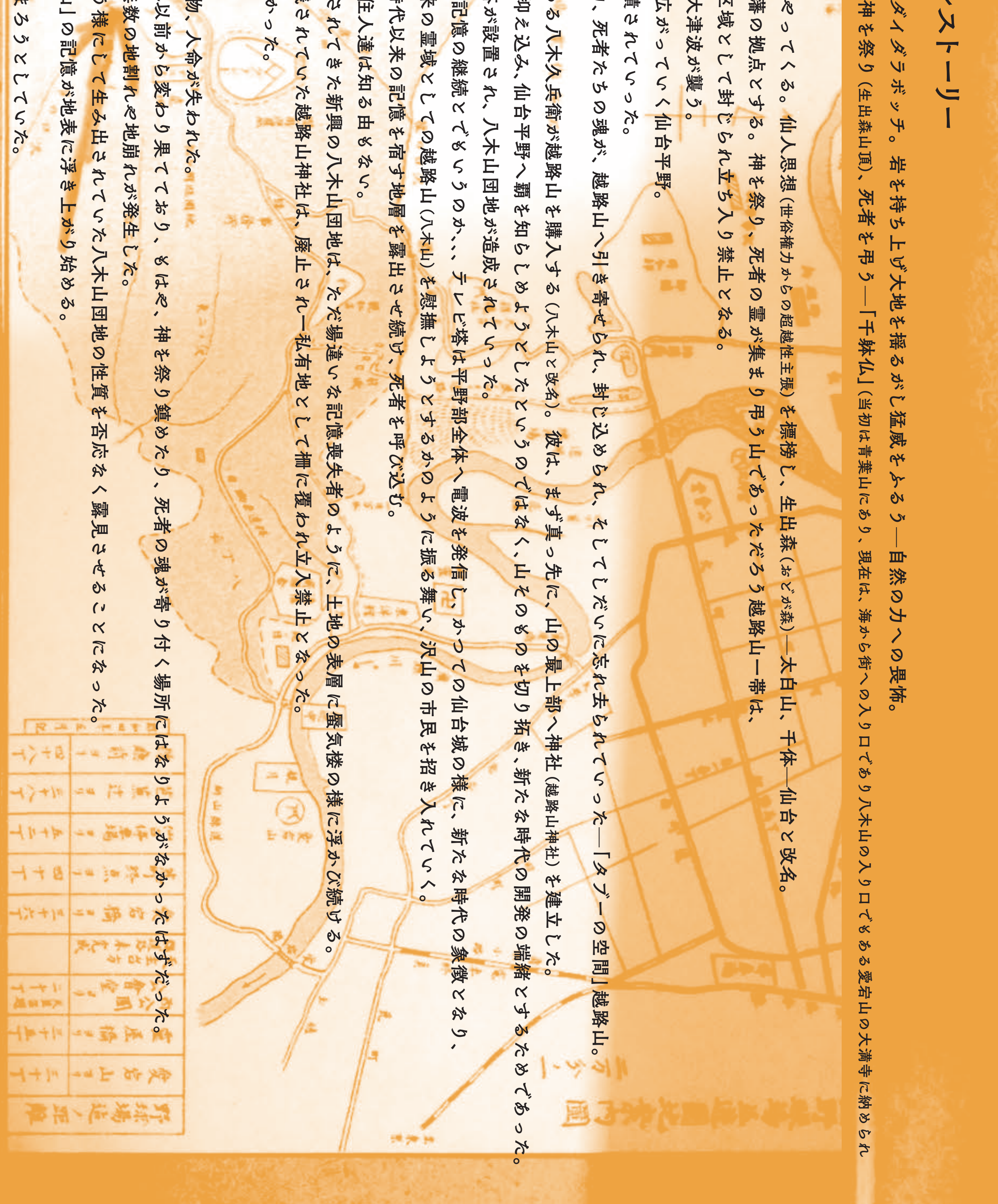
遠い昔に伝わる生出森（おとが森）の巨人伝説——ダイダラボッチ。岩を持ち上げ大地を揺るがし猛威をふるう——自然の力への畏怖。
たび重なる災害、地震、津波にみまわれ続け、神を祭り（生出森山頂）、死者を弔う——「千躰仏」（当初は青葉山にあり、現在は、海から街への入り口であり八木山の入り口でもある愛宕山の大満寺に納められている——この地域一帯を千体・千代と呼ぶ様になる）。

近世になり、この平野部（湿地帯）へ伊達政宗がやってくる。仙人思想（世俗権力からの超越性主張）を標榜し、生出森（おとが森）——太白山、千体——仙台と改名。
仙台平野を見下ろす山頂に築城（仙台城）、仙台藩の拠点とする。神を祭り、死者の霊が集まり弔う山であったろう越路山一帯は、
この城の後背地とされ、伊達家の厳しい管理区域として封じられ立ち入り禁止となる。
この時期再び巨大な大地震がおこり平野部を大津波が襲う。
その復興事業の中で整備開発され水田地帯が広がっていく仙台平野。
その反面、様々なひずみが山の方へ集まり蓄積されていった。
伊達以前の過去の記憶、荒ぶる自然、土地の力、死者たちの魂が、越路山へ引き寄せられ、封じ込められ、そしてしだいに忘れ去られていった——「タブーの空間」越路山。

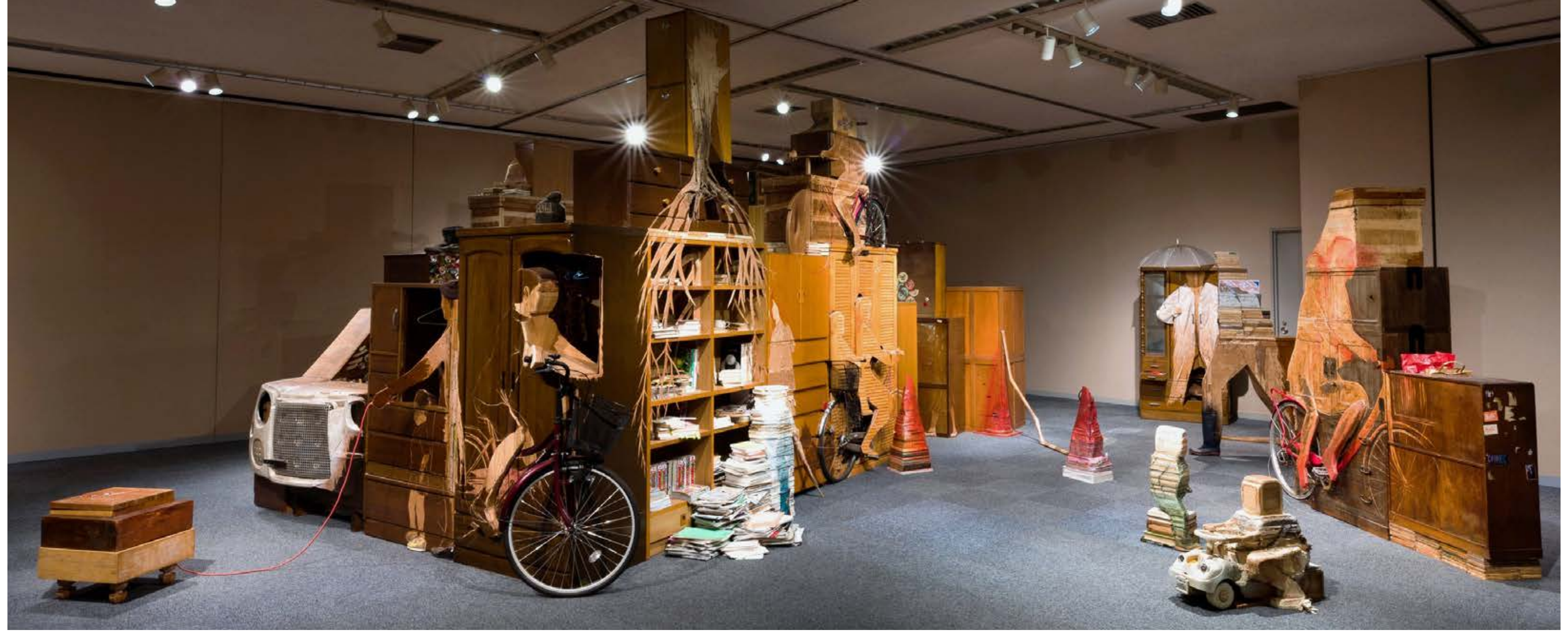
明治、封建制崩壊、仙台城撤廃。一民間人である八木久兵衛が越路山を購入する（八木山と改名）。彼は、まず真っ先に、山の最上部へ神社（越路山神社）を建立した。
それは、伊達にかわって自然の力、死者の霊を抑え込み、仙台平野へ覇を知らしめようとしたというのではなく、山そのものを切り拓き、新たな時代の開発の端緒とするためであった。
吊り橋をかけ、野球場を誘致し、各局テレビ塔が設置され、八木山団地が造成されていった。
しかし、地政学的にというのか、過去の因縁、記憶の継続とでもいうのか…、テレビ塔は平野部全体へ電波を発信し、かつての仙台城の様に、新たな時代の象徴となり、
現在の動物園や遊園地などの行楽施設は、本来の霊域としての越路山（八木山）を慰撫しようとするかのように振る舞い、沢山の市民を招き入れていく。
一方、今なお八木山橋——竜ノ口渓谷は、深海時代以来の記憶を宿す地層を露出させ続け、死者を呼び込む。
もちろんそうした因縁を新しい八木山団地の住人達は知る由もない。
本来特殊な山だった土地を切り崩して生み出されてきた新興の八木山団地は、ただ場違いな記憶喪失者のように、土地の表層に蜃気楼の様に浮かび続ける。
そんな折、突如、八木山動物園奥の山頂部に残されていた越路山神社は、廃止され一私有地として柵に覆われ立入禁止となった。
しかし誰一人としてそのことを省みる者はなかった。

2011年、東日本大震災。
またもやこの平野を大きな津波が襲い多くの物、人命が失われた。
海岸部から望む山（生出森や越路山）は、既にそれ以前から変わり果てており、もはや、神を祭り鎮めたり、死者の魂が寄り付く場所にはなりようがなかったはずだった。
しかし、この地震によって、八木山団地では無数の地割れや地崩れが発生した。
この沢山の大きな亀裂は、越路山の表層を覆う様にして生み出されていた八木山団地の性質を否応なく露見させることになった。
地下に埋もれた土地の記憶——かつての「越路山」の記憶が地表に浮き上がり始める。

今ここで、彷徨（さまよ）える魂達との新たな交信が始まろうとしていた。



背景画像｜『八木山まち物語』より抜粋（八木山連合町内会・八木山南連合町内会編　発行・編集：八木山まち物語作成委員会）



《水源をめぐるある集落の物語：東京-吉祥寺・井の頭AD2017~BC15000》（2017年、武蔵野市立吉祥寺美術館）写真：山中慎太郎、提供：武蔵野市立吉祥寺美術館

《なおす・合体・荒浜1997,3,10–2「無縁の修復」》

《ここにいないものたちのための群像—何処から来て何処へ行くのか—サイノカワラ2016》
（2016年、東京藝術大学大学美術館）

《なおす・代用・合体・連置—ベンツの復元から—東京／宮城（奥松島・里浜貝塚の傍らに埋まる車 より）》（2019年、森美術館）
写真：木奥恵三、提供：森美術館

《なおす・延長・ゆりあげ1995,11,25–2》

岩手県宮古市鍬ヶ崎「さとう衣料店」を題材とした新作の制作風景

青野文昭　Aono Fumiaki

1968年宮城県仙台市生まれ。宮城教育大学大学院美術教育科修了。モノの持つテクスチャーや形態を手がかりに「なおす」をテーマとして、廃棄物や拾得物を用いた表現を行う。近年の主な個展に、「パランプセスト　記憶の重ね書き　vol.7」（2015年、gallery αM）、「青野文昭個展」（2016年、ギャラリーターンアラウンド）。グループ展に、「いま、被災地から －岩手・宮城・福島の美術と震災復興－」（2016年、東京藝術大学大学美術館）、「Royal Academy of Arts Summer Exhibition 2016」（2016年、ロンドン）「コンサベーション_ピース ここからむこうへ part A 青野文昭展」（2017年、武蔵野市立吉祥寺美術館）、コンニチハ技術トシテノ美術（2017年、せんだいメディアテーク）、六本木クロッシング2019展（2019年、森美術館）などのほか、あいちトリエンナーレ2013に出品。宮城県美術館、愛知県美術館、金沢21世紀美術館などにパブリック・コレクションがある。

展覧会関連イベント

ギャラリーツアー

展示作家やメディアテークの担当学芸員と一緒に展覧会を観るツアーです。

①11月 2日（土） 16:00～17:00
②11月16日（土） 14:00～15:00
③11月23日（土） 14:00～15:00
④12月 7日（土） 14:00～15:00

場所　6階ギャラリー4200
参加　各回20名程度、申込み不要、展覧会チケット（当日分）の半券提示が必要です。開始時間前に6階ギャラリー入口にお集まりください。

対談・レクチャー

6階ギャラリーでのギャラリーツアーの後に、展示作家やゲストによるトークイベントを開催します。

福住廉（美術評論家）**×青野文昭**

美術評論家の福住廉と、芸術と日常生活の境界にあらわれる「限界芸術」の観点から青野文昭の作品と表現について読み解きます。

11月16日（土） 15:30～17:30

青野文昭による作品解説

青野文昭が展示中の自作とこれまでの表現活動についてレクチャーします。

11月23日（土） 15:30～17:30

椹木野衣（美術評論家）**×青野文昭**

美術評論家の椹木野衣と、震災から8年が経過した現在の芸術や社会の状況を見据えながら、青野文昭の表現の変遷やこれからについて考えます。

12月 7日（土） 15:30～17:30

場所　7階スタジオa
参加　席数30席程度、申込み不要、
ギャラリーツアーとあわせてご参加下さい。

福住廉（ふくずみ・れん）1975年生まれ。美術評論家。著書に『今日の限界芸術』、共著に『どうぶつのことば』、『アウトサイド・ジャパン』などがある。

椹木野衣（さわらぎ・のい）1962年生まれ。美術評論家。著書に『日本・現代・美術』、『戦争と万博』、『後美術論』（吉田秀和賞）、『震美術論』（芸術選奨文部科学大臣賞）、『感性は感動しない』などがある。

小森はるかによる青野文昭のドキュメンタリー上映

映像作家の小森はるかが、青野文昭の制作過程を記録した新作ドキュメンタリーを上映します。

12月14日（土） ①11:30～
②14:00～
入場は上映の20分前から

場所　7階スタジオシアター
参加　一般500円、高校生以下無料、
展覧会のチケットと共通、当日分の半券提示で展覧会とあわせてご覧いただけます。

小森はるか 1989年生まれ。映像作家。東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。映画美学校修了。東日本大震災後、瀬尾夏美（画家・作家）と共に岩手県陸前高田に移住し、人の暮らしや語り、その佇まいを映像で記録している。主な作品に「the place named」（2011年）、「波のした、土のうえ」（2014年／瀬尾夏美と共同制作）、ドキュメンタリー映画「息の跡」（2016年）などがある。

シネマてつがくカフェ

14時からの上映後、この映像作品の鑑賞をもとに対話をおこなう「シネマてつがくカフェ」を開きます。

12月14日（土） 15:30～17:30

ファシリテーション　西村高宏（臨床哲学、福井大学准教授）
ファシリテーション・グラフィック　近田真美子（精神看護学、福井医療大学准教授）

場所　7階スタジオa
参加　席数30席程度、申込み不要、
上映とあわせてご参加下さい。

イベントスケジュール

11月	2日（土）	16:00～17:00	ギャラリーツアー①
	16日（土）	14:00～15:00	ギャラリーツアー②
		15:30～17:30	福住廉×青野文昭
	23日（土）	14:00～15:00	ギャラリーツアー③
		15:30～17:30	青野文昭による作品解説
12月	7日（土）	14:00～15:00	ギャラリーツアー④
		15:30～17:30	椹木野衣×青野文昭
	14日（土）	①11:30～ ②14:00～	小森はるかによる 青野文昭のドキュメンタリー上映
		15:30～17:30	シネマてつがくカフェ